第67回特別展

居留地返還100周年記念

神戸・横浜 ”開化物語”

摂州神戸海岸繁栄図

トア・ホテル

この年は、幕末の通商条約に基づいて設けられた外国人居留地が、日本に返還されて100周年に当たる。神戸の居留地は、慶応3年12月7日（1868年1月1日）の開港に伴い設けられ、横浜・長崎など他都市の居留地とともに明治32年（1899）に廃止されるまで、30年あまり存続した。居留地は貿易の中継基地であるとともに、欧米をはじめとする外国文明流入の窓口となり、神戸が横浜と並び、日本を代表する貿易港・国際都市として発展していく核ともなった。

本展では、神戸に重点を置き、横浜と比較しながら、居留地の成立から廃止に至るまでの過程や、居留地を中心とする外国人の諸活動を、日本人との関わりを織りまぜながら振り返った。本展が国際都市・神戸の魅力を再発見する好機となった、という評価も受けた。 居留地の設けられた都市の研究者らが集まり、居留地が日本の近代化に果たした役割などについて再認識する「開港場フォーラム」では、会場の参加者から熱心な質問が相次いだ。

会期／平成11年9月11日（土）～10月11日（月・祝）
会場／南蛮美術館室、特別展示室2
主催／神戸市立博物館、横浜開港資料館、神戸新聞社、サンテレビジョン、AM神戸
後援／NHK神戸放送局、旧居留地連絡協議会
協賛／財団法人伊藤文化財団
開催日数／27日
入館者数／9,829人
出品件数／208点